

春つらら 花盛り



散歩がてら楽しんで

延岡 コノハナロード

応援隊整備の花壇が充実

延岡市野地町のコノハナロード(五ヶ瀬川右岸堤防)では、NPO法人コノハナロード



花壇を整備するNPO法人コノハナロード延岡市民応援隊の(左から)松田理事長、神本さん、露木さん、山下さん撮影時のみマスクを外しました。

員たちは「これからは見頃。散歩がてら、ぜひ多くの市民に見に来てほしい」と話している。

花壇は、五ヶ瀬川南詰めにある同ロード入り口から、松山橋に向けて約1.5進んだ道沿いに設けている。河津桜や菜の花が春の訪れを告げ、延岡花物語のイベント会場として多くの人が訪れる同ロード。桜や菜の花以外の花も楽しんでおくと、花壇の整備に取り掛かったのは5年ほど前だった。当時、一面に石ころと落ちており、

「出合いの聖地」といわれる愛宕山の見える場所には、露木さんが石を組んでハート形の花壇を作った



色鮮やかに咲くチューリップ

草は腰の高さまで生えていた。最初にハラの木を植えたときには、草の根も石ころが邪魔をし、50センチの穴を掘る

どの物作りを担当している神本芳徳さん(69)お手製のビニールハウスで育てている。今ではチューリップ、ハンシー、ヒオラ、ルピナスなど「数え切れない」と声をそろえるほど多種類の花が咲き誇る。間もなくハラも咲き「花園になる」も楽しみ。昨年、ようやく充実した花壇を目にした松田さんは「僕ら自身が感動した」という。同所では彼岸花やコトシロなどとも植えられるため「四季を通じて市民の皆さんに楽しんでほしい、憩いの場をつくりたい」と日々整備している。さまざまな花壇を見てもうれはうれしく、と松田さん。花壇は5月

花壇は主に、山下康彦さん(81)と露木忠美子さん(69)が担当。今年はコロナ禍で中止になったが、2月下旬の「延岡花物語」の開催に合わせて、前年の秋から種をまき、苗作りを始める。毎日の水やりが必要のため、山下さんは目が行き届くようにと、苗を家に持ち帰って育てる徹底ぶり。また、寒い時期の管理になるため、プラントナーの木の枠や棚な

2021.4.5

ろまで楽しめるとい